

仙台北部道路 全線開通10周年 整備効果



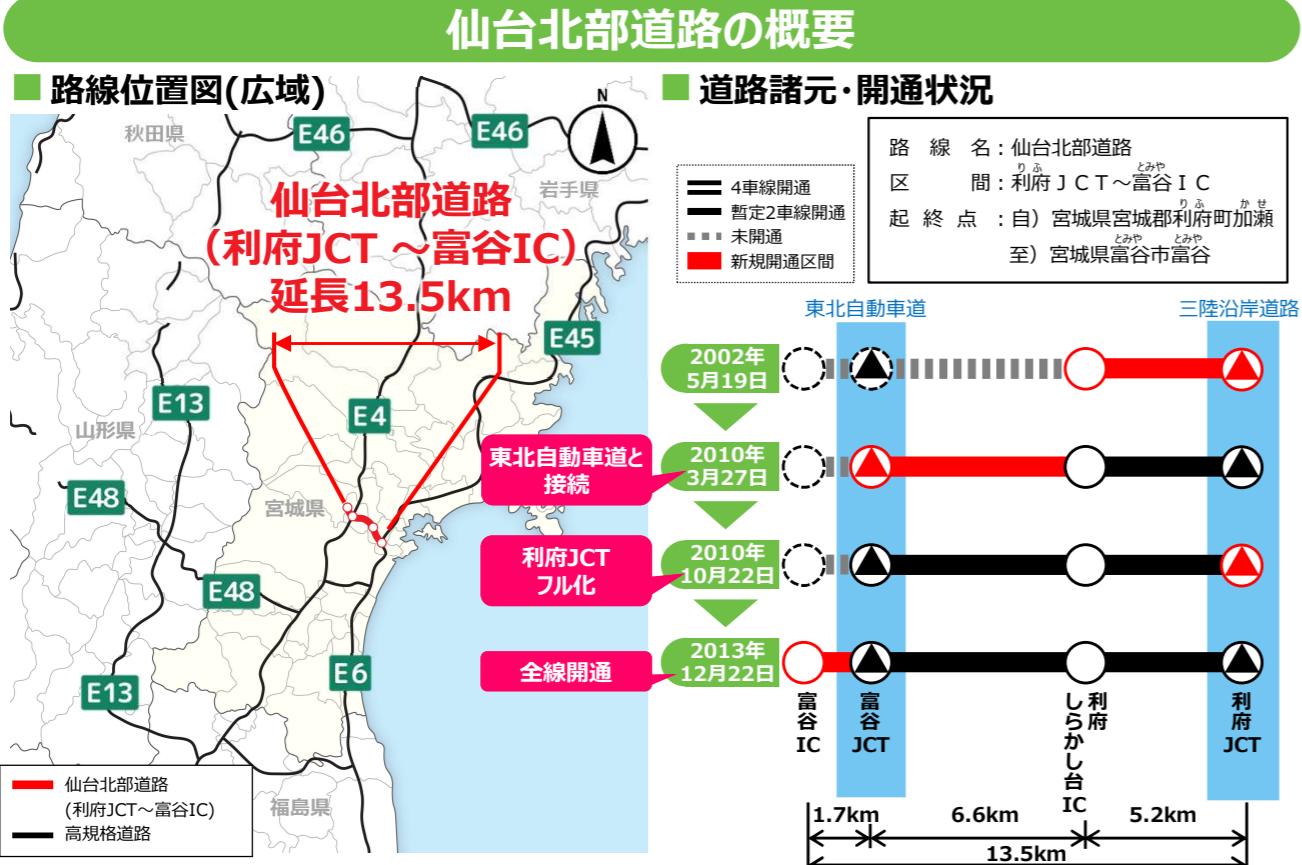
仙台北部道路 利府JCT付近 利府しらかし台IC方面を望む

あなたに、ベスト・ウェイ。



仙台北部道路

- 仙台北部道路は、三陸沿岸道路と東北自動車道を結ぶ、総延長13.5kmの自動車専用道路です。
- また、仙台都市圏高速環状ネットワーク（ぐるつ都・仙台）の北側の東西区間を形成しています。
- 2013年12月22日の富谷JCT～富谷IC間の開通により、仙台北部道路が全線開通となりました。



目次

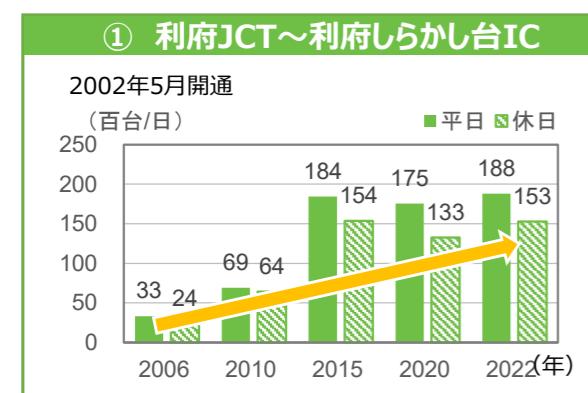
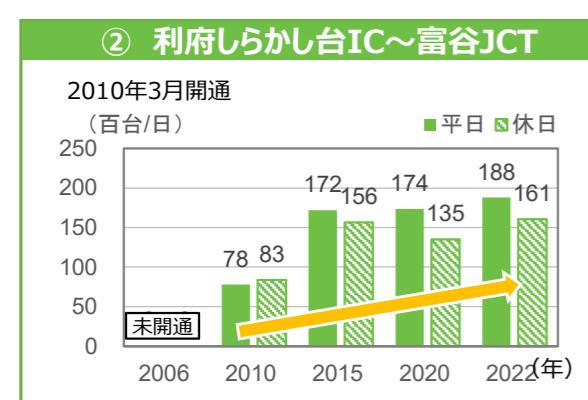
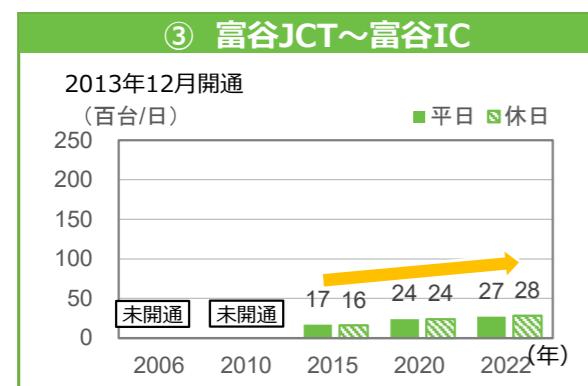
1 仙台北部道路のあゆみ	1
仙台北部道路の開通と交通量の変化	1
2 仙台北部道路の整備効果	2
企業活動を支援する仙台北部道路	2
産業を支援する仙台北部道路	3
観光を支援する仙台北部道路	4
生活を支援する仙台北部道路	5
救急医療を支援する仙台北部道路	6
環境負荷低減を支援する仙台北部道路	6
防災を支援する仙台北部道路	7
沿線まちづくりを支援する仙台北部道路	8
地域経済の発展を支援する仙台北部道路	9
3 仙台北部道路のこれから	10
仙台北部道路の未来に向けた取組み	10

1 仙台北部道路の あゆみ

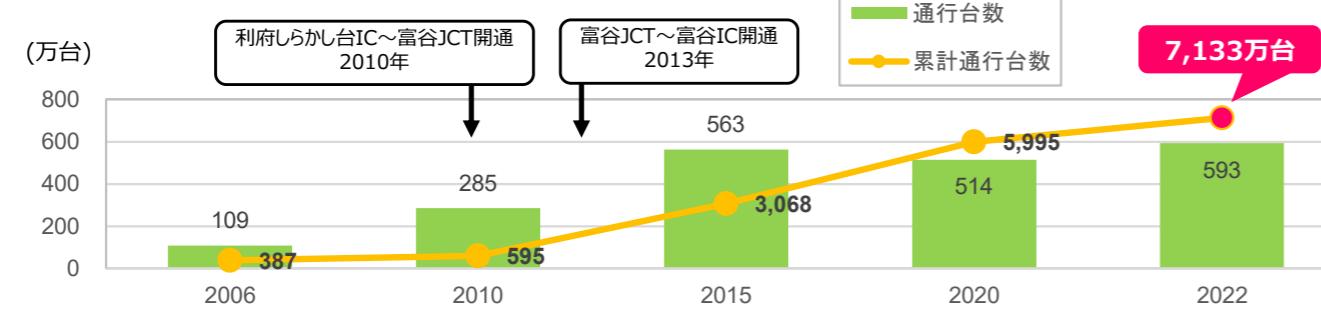
仙台北部道路の 開通と交通量の変化

- 仙台北部道路は、沿線に住宅地や商業施設等が立地し、湾岸部に仙台塩釜港・仙台空港を有する東西方向の自動車専用道路として、重要なネットワークを形成しています。
- 2022年には累計交通量が約7,100万台となり、多くのお客様にご利用いただいています。

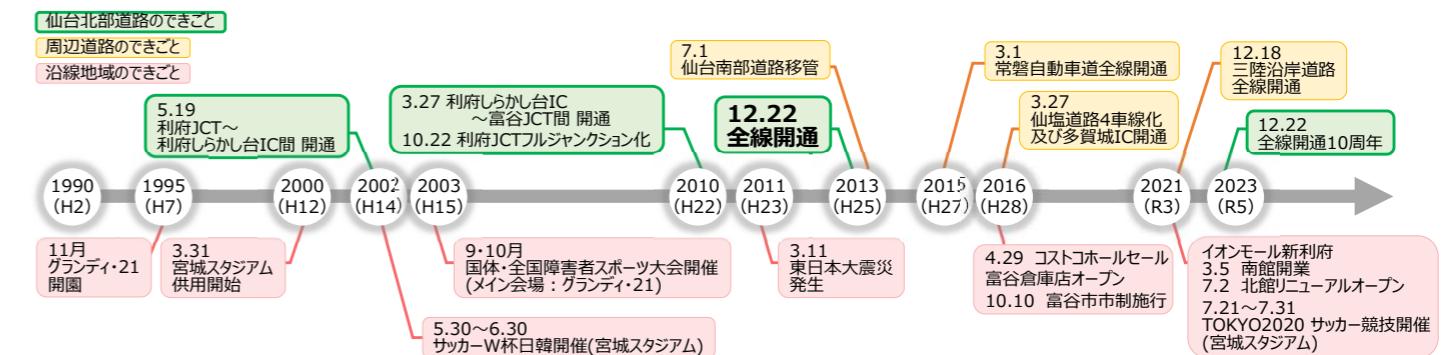
■主要断面の交通量の推移



■仙台北部道路の通行台数の経年推移



■仙台北部道路のあゆみ



■仙台北部道路による所要時間変化

泉パークタウン工業流通団地入口～国道45号八幡小学校入口間



出典：全国道路・街路交通情勢調査（1999年、2021年）
混雑時旅行速度

2 仙台北部道路の 整備効果

企業活動を支援する 仙台北部道路

- 仙台北部道路の沿線は、工業団地が複数立地する中で、全線開通により利府しらかし台ICから仙台港北IC間の所要時間が半分以下に短縮するなど各方面へのアクセス性が向上し、企業や物流施設の立地が進展しました。
- 仙台北部道路は、各地へのアクセス性や内陸部～沿岸部への時間信頼性の向上により、東北の重要な物流拠点の集積地として大型物流施設の進出とともに、周辺の企業活動を支援しています。



▼仙台北部道路沿線の企業立地状況



※1 開発予定を含む

※2 沿線立地企業の抽出条件：2010年以降に沿線自治体（富谷市、利府町、大和町、大衡村、大郷町、仙台市）に1,000m²以上の用地を取得して立地した製造業企業

沿線地域に企業立地が進展

沿線自治体の累計立地企業数（2001年-2022年）



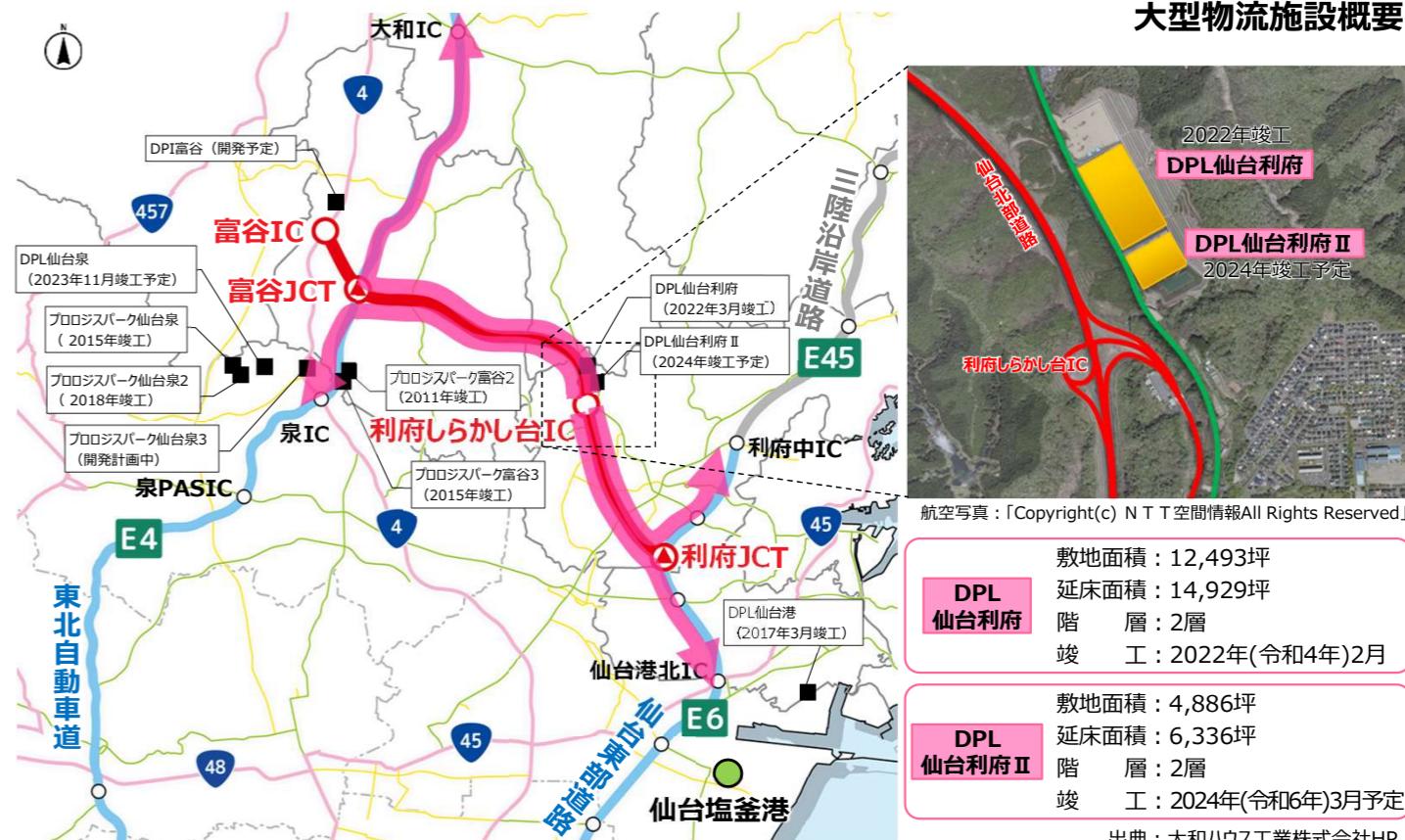
※沿線立地企業の抽出条件：

2001年以降に沿線自治体（富谷市、利府町、大和町、大衡村、大郷町、仙台市宮城野区、仙台市泉区）に1,000m²以上の用地を取得して立地した製造業企業

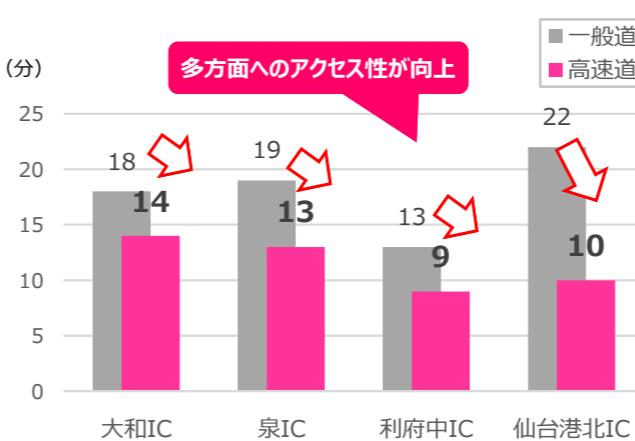
出典：NEXCO東日本調べ

仙台市街地への近距離配送に加え、東北全域への 中・長距離配送の効率化を支援

仙台北部道路周辺の大型物流施設立地状況



利府しらかし台ICから近接ICへの所要時間



周辺物流施設開発企業の声

- 仙台北部道路が一部を担ううるつ都・仙台は、**都市圏環状道路として首都圏の環状道路と同じような機能を担い、東北自動車道や沿岸部など多方面へのアクセスが可能**。沿線の大型物流施設は、利府しらかし台IC近接であることが開発の決め手で、交通利便性の高さから予想以上のニーズがあり、隣接地に2施設目を整備した。
- 仙台北部道路があることで、**東北自動車道沿線から沿岸部へのアクセス性が向上**。時間が読めることは物流の品質確保につながる。また、三陸方面にもアクセス性が高いため、誘致企業の拡大や今後の候補地の大が期待される。

出典：2023年企業ヒアリング調査



2 仙台北部道路の 整備効果

- 仙台北部道路の通る湾岸部には、東北地方で**貨物量シェア1位**を占める仙台塩釜港・仙台空港が立地し、東北地方各地の**産業の玄関口**となっています。
- 仙台北部道路は、東北地方各地から湾岸部への**所要時間短縮や時間信頼性の向上**により、**地域産業の活性化を支援**しています。



▼仙台北部道路近隣の主な港湾・空港



▼仙台空港の国際取扱貨物量推移



出典：2022年宮城県貿易概況

産業を支援する

仙台北部道路

地域産業の活性化を支援

完成自動車の出荷・部品供給ルート



出典：宮城県の自動車産業、2023年企業ヒアリング調査

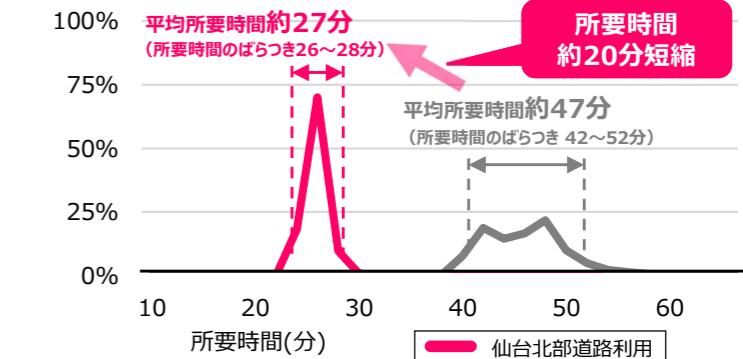
自動車部品輸送企業の声

自動車メーカーで決められた納品時間に合わせて輸送するため、仙台北部道路を利用しています。ドライバーの労働時間の制約等も鑑みて、定時性があり、輸送時間が短縮できる選択肢として高速道路の利用が欠かせません。

出典：2023年企業ヒアリング調査

所要時間と時間信頼性の変化

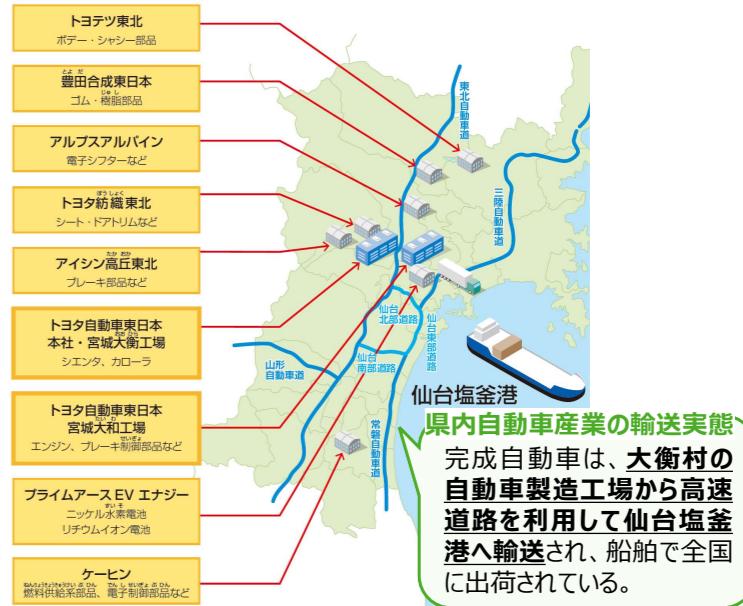
(自動車工場（大衡村）～仙台塩釜港間)



※時間信頼性（所要時間のはらつき）は所要時間の上位10%値と下位10%値の時間差により評価。（事故等が発生し、移動に極端に時間がかかってしまった場合などを除外する考え方）

※平均所要時間はすべてのサンプルデータにて算出。

出典：ETC2.0プローブデータ（2022年1月～10月、12月 平日昼間12時間）



県内自動車産業の輸送実態
完成自動車は、大衡村の自動車製造工場から高速道路を利用して仙台塩釜港へ輸送され、船舶で全国に出荷されている。

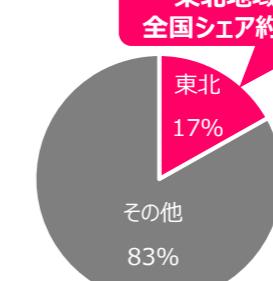
出典：宮城県の自動車産業

半導体製品の出荷ルート



東北地域の半導体関連産業 製造品出荷額全国シェア

東北地域は全国シェア約2割



※半導体関連産業：
電子部品・デバイス・電子回路製造業、
半導体製造装置業

出典：2022年経済構造実態調査

製造業事業所調査（地域別統計表データ）



出典：「東北の半導体、
エレクトロニクスの未来をデザインする
(東北経済産業局)」から作成

国際貨物フォワーダー企業の声

2024年問題で、東北の製品等を成田空港まで陸送せず、
仙台発の国際貨物として輸送するニーズが高まっています。
仙台空港では、2023年7月下旬に仙台～台北線を利用した航空貨物の定期輸出が再開しており、**宮城・岩手を中心とした半導体製造装置関連の部品工場からの利用を見込んでいます。**

出典：2023年企業ヒアリング調査

2 仙台北部道路の整備効果

観光を支援する 仙台北部道路



出典：観光統計概要（2021年）



イオンモール新利府
：約1,200万人（2022年）



グランディ・21
：約56万人（2021年）

■ 泉パークタウン～石巻市中心部の所要時間



道路利用者の声

仙台市青葉区から石巻方面に行く時、多少戻る形になるが仙台北部道路が出来る前は一般道だったので早くなつた。目的地ではゆっくり買い物をしたり、周辺で観光をして、年々復興していく様を妻と見るのを楽しんでいます。

出典：2023年聞き取り調査

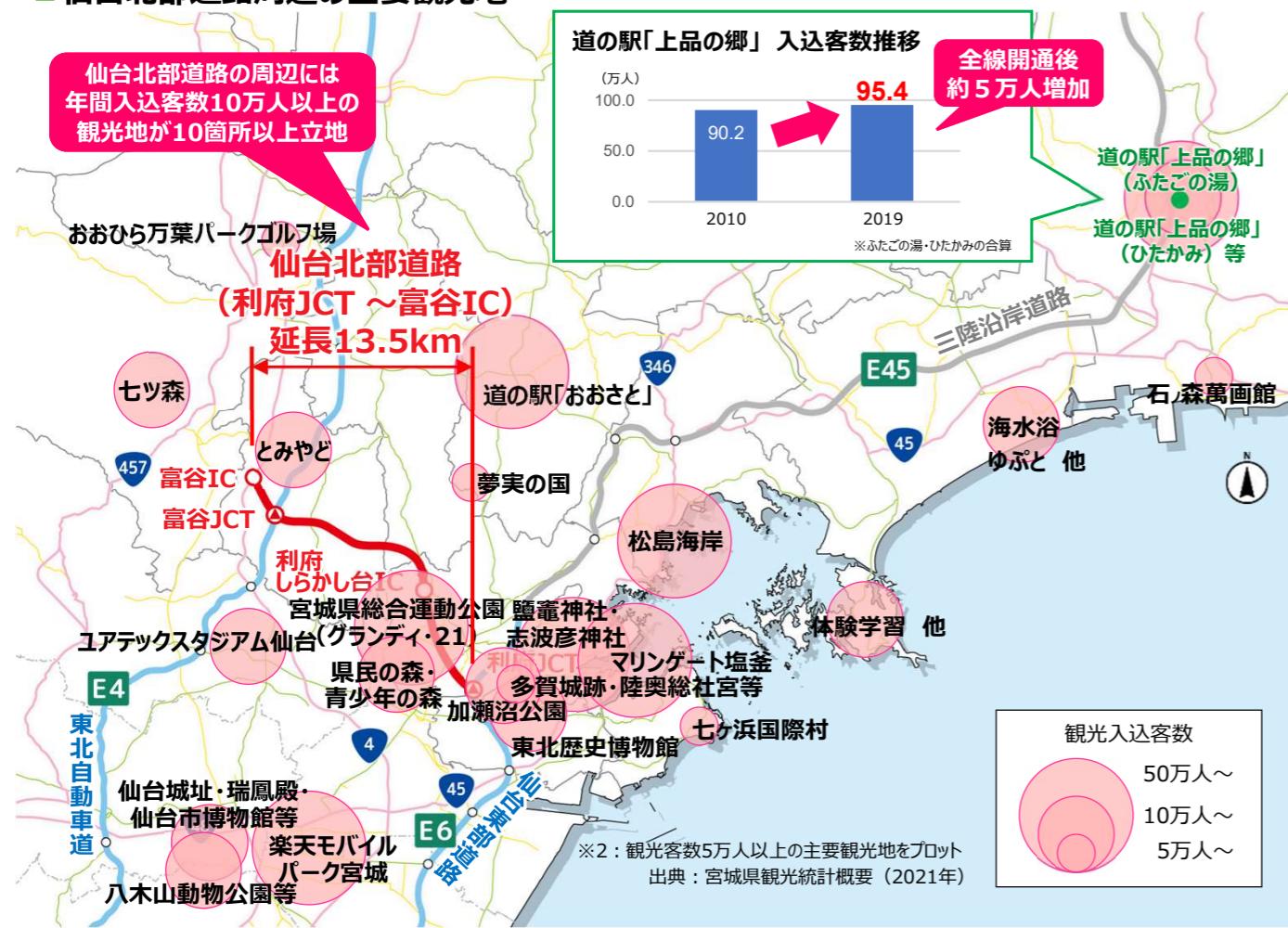


- 仙台北部道路の周辺地域には、人気の高い観光地（松島・石巻エリア等）や大型商業施設、総合運動公園など、県内の主要観光地が多数立地しており、周辺地域の観光入込客数※1は年間約760万人に上ります。
- 仙台北部道路は、各地からのアクセス性、主要観光地への所要時間短縮により、集客の拡大や滞在時間の増加による観光振興を支援しています。
- また、グランディ・21の大規模イベント開催時や、宮城スタジアムのTOKYO2020サッカー競技開催時の施設への輸送経路として利用され、国内外の大規模イベントの開催を支援しています。

※1：仙台北部道路周辺の主要観光地（下図）に示す観光地の入込客数の合計

観光地へのアクセス性が向上し、交流人口の拡大を支援

■ 仙台北部道路周辺の主要観光地※2

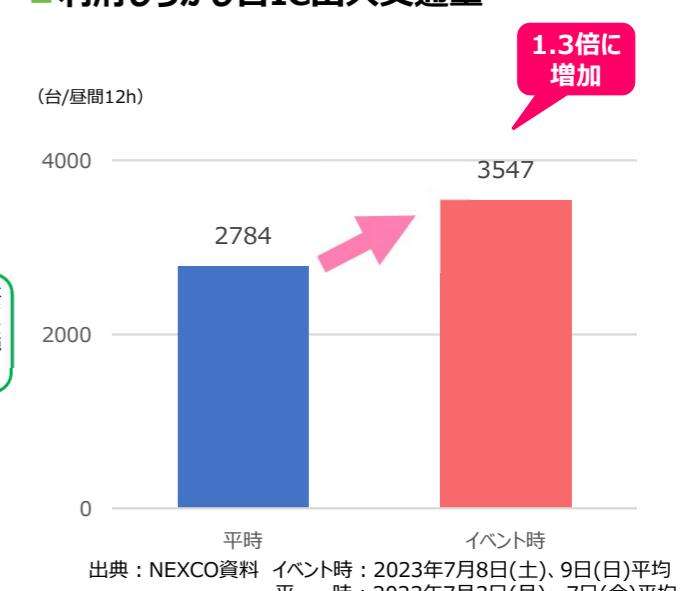


大規模イベントの開催を支援

■ グランディ・21における大規模イベント開催時の道路利用状況



■ 利府しらかし台IC出入交通量



TOKYO2020サッカー競技の関係者・観客輸送を支援

■ 宮城会場の関係者・観客輸送ルート



2021年7月21日～31日
(計6日間) 開催
延べ約19,300人が来場



出典：国土交通省資料、宮城県輸送連絡調整会議資料、東京2020大会宮城県開催記録誌

2 仙台北部道路の整備効果

生活を支援する 仙台北部道路

- 仙台北部道路は、全線開通により富谷ICから仙台港北IC間において所要時間が80分短縮、事故の起りやすさが並行する国道4号の約3%程度と渋滞・事故リスクの回避により、内陸部と湾岸部の通勤・通学の利便性向上を支援しています。
- また、内陸部と湾岸部の時間信頼性や走行安定性の向上により、食料品や石油製品、乳酸菌飲料、紙原料の輸送など、東北の日常生活を支える製品の安定供給を支援しています。



通勤の利便性が向上

■ 富谷IC～仙台港北IC間の渋滞・事故リスクの回避



※整備前：1999年、整備後：2021年の混雑時（7時～9時、17時～19時）所要時間
出典：全国道路・街路交通情勢調査（1999年、2021年）

出典：NEXCO東日本調べ、イタルデータ（2018年～2021年）

食料品の安定輸送を支援

■ 冷凍食品の輸送支援



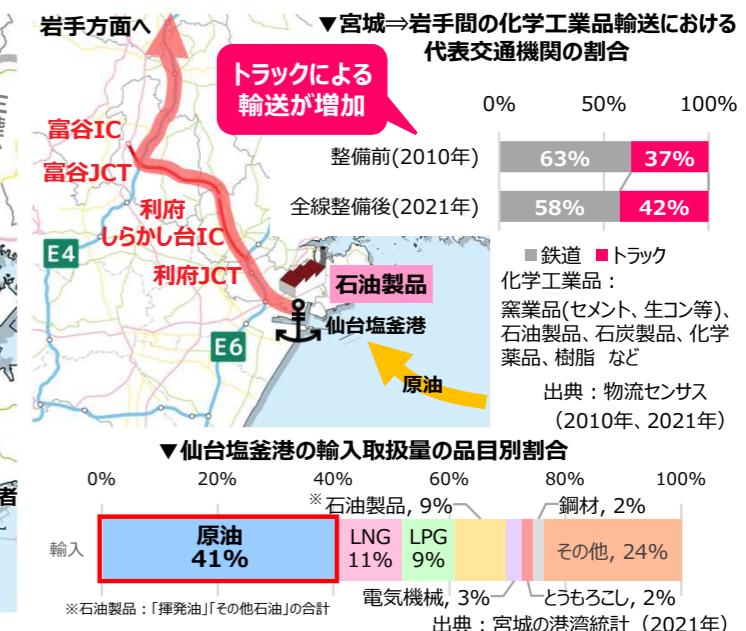
食品配送企業の声

客先への納品時間は、周辺で待機をさせないよう事前予約受付の順番に予約時間の前後30分と決められており、時間通りに配送することが必要。確実に時間の読める仙台北部道路を使うことで、客先納品時間に合わせた輸送ができる。加えて、ドライバーの労働時間超過が抑えられ、働き方改革の観点からも高速道路利用は必須。

出典：2023年企業ヒアリング調査

工業製品の安定供給を支援

■ 工業製品の輸送支援



石油製品輸送企業の声

石油製品を各地へ輸送する際には、定時性や安全性を考慮し高速道路利用が指示されている。岩手方面への輸送では仙台北部道路を利用して、仙台北部道路があることで、石油製品の安全かつ安定した供給が可能となっている。

出典：2023年企業ヒアリング調査

日用品や清涼飲料の安定供給を支援

■ 清涼飲料の輸送支援



清凉飲料輸送企業の声

製品の輸送では、振動も品質に影響するため、信号がなく安定して走行できる高速道路の利用が必須となる。2024年問題もあり、ドライバーの労働時間管理の観点からも、輸送時間が読めることは重要。仙台北部道路があることで、日々の食品の安定輸送や円滑な運行管理が可能となり、大変助かっている。

出典：2023年企業ヒアリング調査

■ 紙原料の輸送支援



製紙企業の声

東日本大震災時に工場が稼働停止し、顧客を損失した経験から、客先への原料調達を果たす観点や、2024年問題のドライバー労働時間管理の観点から、定時出発・定時到着による安定物流が必須。時間を読んで確実に客先へ搬送することが必要で、高速道路の利用は欠かせません。

出典：2023年企業ヒアリング調査

2 仙台北部道路の整備効果

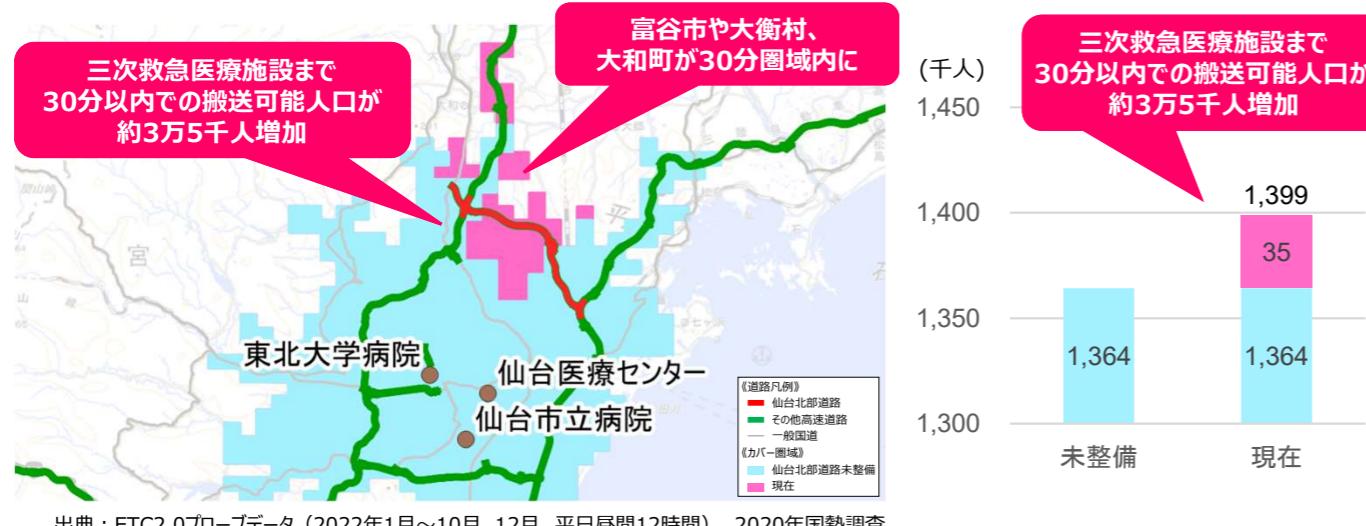
救急医療を支援する 仙台北部道路

- 仙台・塩釜地域の三次救急医療施設は、**仙台市中心部に立地**しています。
- 仙台北部道路は、救急車両が重篤な患者を**より早く安定して搬送**することにより、**迅速な救急医療活動を支援**しています。



救急医療活動を支援

■ 仙台市内三次救急医療施設の30分カバー圏域・人口



出典：ETC2.0プローブデータ（2022年1月～10月、12月 平日昼間12時間）、2020年国勢調査

沿線地域消防本部の声

仙台北部道路を利用することで、仙台市内の三次医療施設に迅速・安全に救急搬送することができ、搬送時間の短縮につながる。また、医師に早く患者を引き継ぐことができ、早期治療が見込める。

出典：2023年企業ヒアリング調査

2 仙台北部道路の整備効果

環境負荷低減を支援する 仙台北部道路

- 仙台北部道路を含む仙台都市圏高速環状ネットワーク（ぐるっと仙台）は、**仙台駅周辺地域などの都市部を囲む自動車専用道路**です。
- 仙台北部道路は、**一般道の走行性向上等**により仙台都市圏内の大気汚染物質の排出量が削減され、**仙台都市圏全体の環境負荷低減を支援**しています。

算出条件：仙台都市圏のセンサス対象道路（県道以上、境界の高規格道路は含まない）を走行する車両の各排出量を整備前後で比較

※1：開通前後の交通量と旅行速度は、1999年と2021年の全国道路・街路交通情勢調査の24時間交通量と混雑時旅行速度を使用。

※2：CO₂・NO_x・SPM排出量の原単位は『国土技術政策総合研究所資料第671号「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠（2010年度版）』より引用。

※3：林野庁HPより引用し算出。（36～40年生のスギ人工林1haが1年間に吸収する二酸化炭素の量は約8.8トンと推定される。）

※4：NO_x排出削減量を、大型車1台が40km/hで平均走行距離を走行した場合に排出するNO_x量に換算。

※5：平均走行距離（営業用貨物車）：約45km/台（2021年全国道路・街路交通情勢調査）

※6：SPM削減量を500mlペットボトル1本分のSPM量（約100g-SPM/本）に換算

出典：全国道路・街路交通情勢調査（1999年、2021年）、客観的評価指標の定量的評価指標の算出方法（案）（国土交通省）、国土技術政策総合研究所資料第671号「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠（2010年度版）」

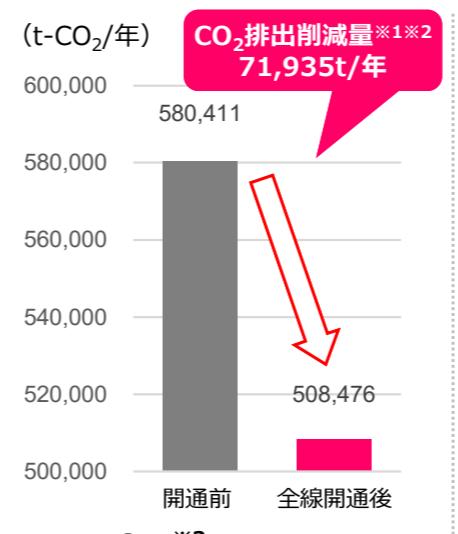


※計測対象路線：仙台都市圏のセンサス対象道路（県道以上、境界の高規格道路は含まない）

※センサス区間別混雑時旅行速度、交通量を用いて算出

仙台北部道路の整備により環境負荷が低減

■ CO₂排出量



8,174ha^{※3}の森林が1年間に吸収するCO₂に匹敵

東京ディズニーリゾート（テーマパークエリア）約82個分の広さに相当

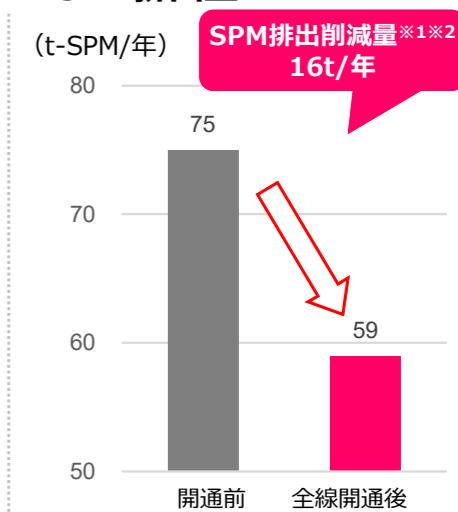
■ NO_x排出量



大型車に換算すると約200万台に相当



■ SPM排出量



500mlペットボトルに換算すると約16万本に相当



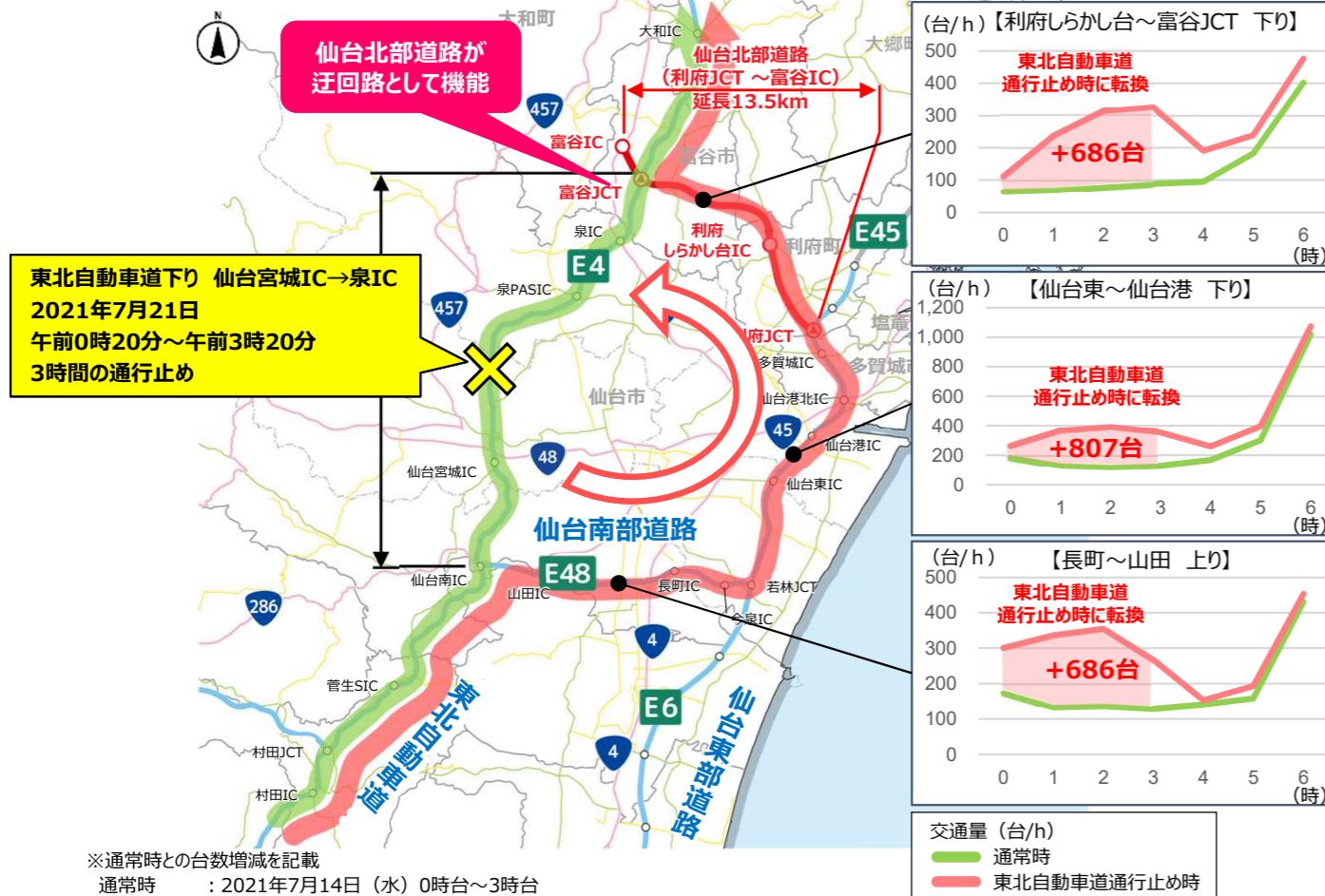
2 仙台北部道路の整備効果

- 東北自動車道の仙台南IC～富谷JCT間では、**自然災害や事故等による通行止めが発生**することがあります。
- 仙台北部道路は、高速環状ネットワークとして**東北自動車道の代替機能**を発揮することにより、**防災のリダンダンシーを支援**しています。



東北自動車道の迂回路として防災を支援

■ 東北自動車道（仙台南IC～富谷JCT間）通行止め時における周辺道路の交通量の変化



沿線自治体の声

災害時の救援活動や避難物資運搬等について、経路の選択が可能になることは、企業がBCP計画を策定する上でポイントとなり、立地先として沿線自治体を選ぶ上でも寄与していると考えられる。

出典：2023年自治体ヒアリング調査

防災を支援する 仙台北部道路

大地震発生時の命の道として防災を支援

■ 東日本大震災発生時の塩竈市・石巻市方面への緊急車両の通行支援



■ 大規模災害発生時の物資・支援部隊の拠点へのアクセス支援

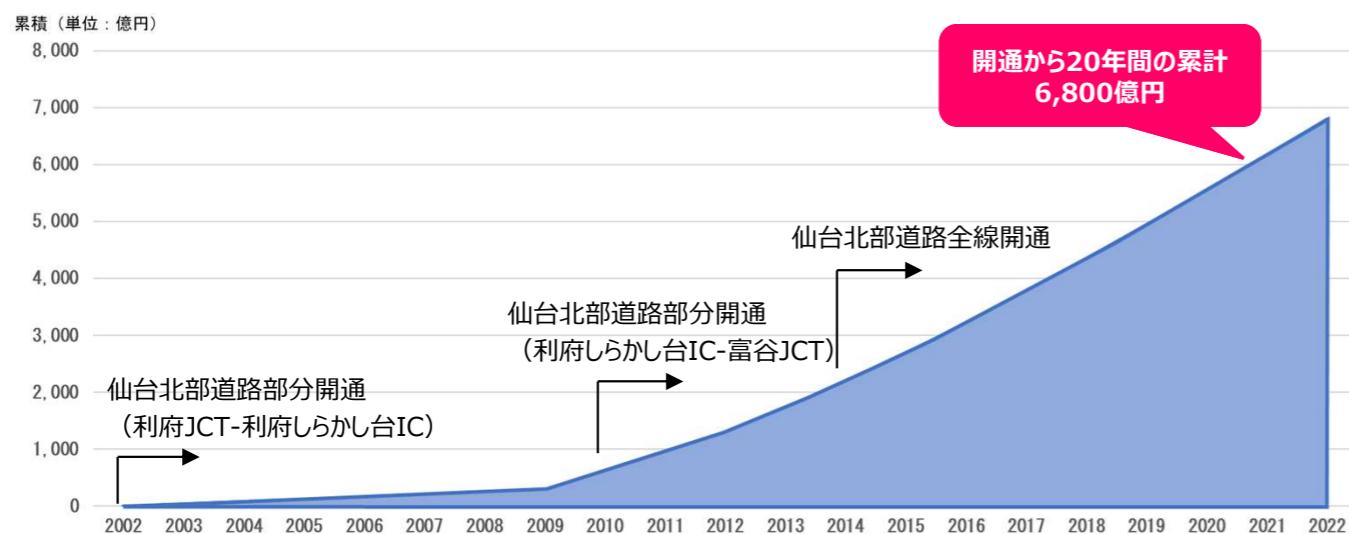


地域経済の発展を支援する 仙台北部道路

仙台北部道路の経済波及効果※は

開通から20年間で 約6,800億円 にのぼる

■ 仙台北部道路の累積効果（2002～2022年）



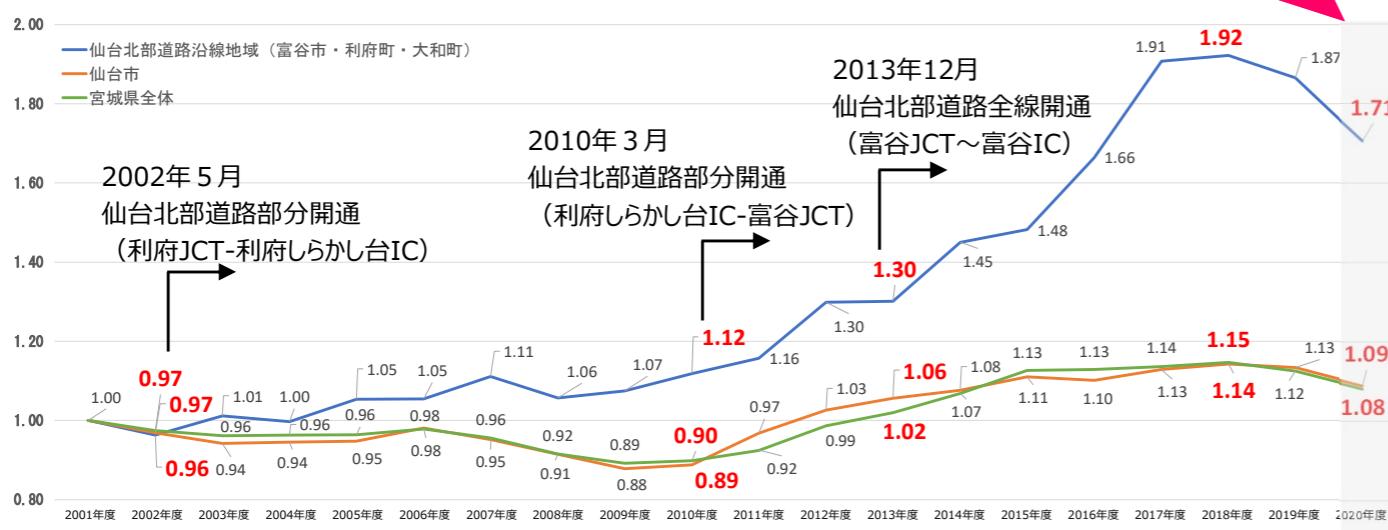
※経済波及効果について

道路整備による地域間の時間短縮効果がもたらす企業活動の生産性向上、設備投資等の経済活動の関係をモデル化した地域計量経済モデルを用い、仙台北部道路の整備あり・なしによる地域間の時間短縮効果から、仙台北部道路が存在することによって想定される過去20年間（部分開通時の2002年から全線開通を経て直近の2022年まで）の経済波及効果を算出。

～仙台北部道路沿線地域（富谷市・利府町・大和町）の総生産額が大幅に増加～

- 仙台北部道路沿線地域（富谷市・利府町・大和町）の総生産額は、仙台北部道路が部分開通した2002年度以降、近接する仙台市及び宮城県全体を上回る伸び率を記録、2010年度以降の相次ぐ企業進出等の影響で右肩上がりに上昇し、宮城県の経済を支えている。

▼仙台北部道路沿線地域の市町村内総生産伸び率推移（2001年比）



仙台北部道路沿線で 効果を実感



富谷市長



利府町長

若生 裕俊 氏

熊谷 大 氏

富谷ICが2013年12月に供用され、仙台北部道路が全線開通となって10年が経過しました。仙台都市圏高速環状ネットワーク（ぐるっと都・仙台）の北側の東西区間を形成している仙台北部道路が、企業の進出や人口の増加など、富谷市の発展の一翼を担っていただいていること、大変感謝しております。

富谷IC付近の高屋敷工業団地では、大規模会員制倉庫店や、ファインセラミックス製品の工場等が立地し、隣接する高屋敷西地区においても、新たな工業団地の造成が進んでおり、今後更なる企業立地が予定されております。

当市に近接する仙台北部中核工業団地や大和リサーチパークといった大規模工業団地においても、物流や通勤の面で仙台北部道路は欠かせないものとなっております。

また、富谷IC周辺の住宅地では行動範囲が広域化し、通勤や買物の利便性が向上することで、人口の増加にもつながっております。

今後は、仙台北部道路の4車線化の整備促進や富谷JCTのフルジャンクション化の早期事業化など、更なる高速道路ネットワークの機能強化及び充実を図っていただき、当市が目指す「住みたくなるまち日本一」の実現に貢献していただけることを期待しております。

仙台北部道路の全線開通10周年、誠におめでとうございます。2010年に本町の利府しらかし台ICの利用開始、そして2013年には仙台北部道路の全線開通に伴い、大きな整備効果があつたと実感しているところであります。顧みますと、2001年の新世紀・みやぎ国体、2002年FIFA日韓ワールドカップの会場である宮城スタジアムへのアクセス道路として利府JCT - 利府しらかし台IC間の5.2kmが先行開通されたのち、富谷ICまでの開通となる約10年の歳月は、仙台都市圏域にとって非常に長く感じられました。

未曾有の大災害である東日本大震災に見舞われましたが、宮城県総合運動公園が自衛隊や消防、警察の活動拠点及び集配拠点となったことから、仙台北部道路が命の道として大きな役割を担い、その後の復旧・復興の下支えになったものと実感しております。

また、観光・産業面においても、仙台北部道路は大型商業施設や宮城県総合運動公園など県内主要観光地への接続拠点となっており、各種コンサートや東京オリンピックサッカー競技大会など国内外の大規模イベントが開催され、多くの人が利府町を訪れたほか、新規の工業団地が整備されるなど産業、観光、生活基盤とあらゆる面で地域活性化の一助となっております。

仙台北部道路は仙台都市圏域には欠かせない重要な道路であることから、現在進められている4車線化工事について、さらなる利便性の向上が図られ、地域活性化への貢献に寄与していくことを期待しております。

3

仙台北部道路の
これから仙台北部道路の
未来に向けた取組み

- 仙台北部道路は、全線が暫定2車線で開通しており、利府しらかし台IC～富谷JCTで4車線化工事を進めています。
- 4車線化の開通により、暫定2車線の抱える課題の改善とともに、連続する三陸沿岸道路（仙塩道路）の4車線化開通と合わせて、富谷～仙台港方面の更なる利便性の向上が期待されます。
- また、東北自動車道をはじめ管理する高速道路の約4割が供用から30年を超過し、老朽化や劣化が顕著のため、高速道路リニューアルプロジェクトの推進を支援します。

